

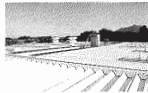
お客様の
「お困り事」を
いち早く解決

お客様に
「満足感」を
お届けする

●床用塗料



●屋根用塗料



●防水材



スピード *Speed* & チャレンジ *Challenge*

●道路用塗料



●コンクリート補修材



●視覚障がい者誘導用標示



ATOMIX
since 1937

アトミクス株式会社

〒174-8574 東京都板橋区舟渡 3-9-6
TEL. (03) 3969-3111/FAX. (03) 3968-7300



<http://www.atomix.co.jp>

検索 アトミクス

SDGs の取り組みを加速

アトミクス 代表取締役社長 神保敏和氏

アトミクスはSDGsの取り組みに注力している。一昨年からSDGsのプロジェクトチームを発足した他、埼玉県のSDGsパートナーに登録。「新しい価値観に対応していく必要がある」と歩みを進めていく。

◇

——中間決算を受けて、市況の変化をどう見えていますか。

「民間需要の回復は鈍いですが、工場を稼働させられないことから自分たちの手でメンテナンスをしようという動きが出ています。当社でもその動きに合わせて、手軽に塗床の欠損部分を補修できる新製品『ウマルチューブカラー』を上市し順調な滑り出しを見せています。一方、オリンピック後に冷え込むと予想された官庁工事は比較的順調に推移しています。自動車の高度化に伴い、車線を検知する機能が実装された自動車が増えています。そのため、車線が消えていたりする場所があると事故につながることに懸念されます。高速道路の白線などは、実際に車線の検知がしっかりできるようにするため、予算を付けて工事を行っているところもあるようで、ライン用塗料の需要も高まっています」

——一方で原材料価格の高騰で、価格対応が必要な状況になっています。

「価格に関しては当社でも原材料調達の最適化など努力を続けていますが、適正な価格に引き上げざるを得ませんでした。当社のお客様は直接工事を行うことも多く、まずは工事受注の

タイミングとのずれがないようスピーディに対応していく必要があります」

——営業体制においての変化は。

「緊急事態宣言の解除などに伴って、少しずつ対面での営業も増えてきています。先日出展した展示会では、2019年度に比べて7割程度の客足だと聞いています。ただ、以前より具体的な困りごとなどが寄せられており、本当に情報を欲しているお客様が増えています。環境対応製品なども注目されています」

——一昨年からSDGsの取り組みに力を入れています。

「売上や利益といった経済的な成長だけでなく、社会への貢献といった部分が企業においても重要になっています。当社ではこれまで社内講習会を開き、SDGsとは何かというところから理解を深めてきました。現在は、『人と環境にやさしい思いやり』を持つ企業を目指し、『地球および人の安全と快適性の確保』をコンセプトに掲げ、SDGsの目標達成に向けて貢献していくことを目指しています」

——昨年は埼玉県のSDGsパートナーに登録しました。どのようなものですか。

「環境、社会、経済の3つの分野においてそれぞれSDGsに関わる取り組みや目標が設定されていることが条件です。登録から1年経過ごとに取り組みの進捗状況(指標)を県に報告しなければなりません。当社では埼玉県に加須市と久喜市に工場があるため登



録しました」

——具体的な取り組みについては。

「まず、環境の面では加須・久喜工場の電力によるCO₂排出を2030年までに50%削減することを目標にしています。製品面では、全塗料に占める低VOC塗料の割合を高めます。次に社会に対してですが、加須工場で行ってきた公園遊具塗装のボランティアや交通遺児支援活動を継続して行います。また交通環境整備製品や建物長寿命化製品などの社会課題の解決に貢献する製品開発・改良も進めていきます」

——明確に数値を設定しているわけですね。SDGsに取り組む意義は何だと考えますか。

「今まで当社ではお客様のお困りごとを解決することを最重要テーマとして製品の開発や提案を行ってきました。しかし、これからは環境負荷の少ない製品や作業者の負担軽減なども求められています。これから事業を行う上で変化するニーズに応えることは重要になってきます。当社の取り組みを社会に発信することで、同じSDGsに取り組んでいる顧客企業との関係を深められる可能性もあります。また、SDGs

や環境への意識が高い企業と関わることは研究開発などの面でも有益だと考えています」

——製品開発にもSDGsの発想が必要ということですか。

「製品開発の上でもSDGsの取り組みを意識していくことは必要だと考えています。例えば、水性塗料の乾燥コントロールは重要なテーマとして継続して研究していますが、SDGsや社会貢献など新しい考え方を浸透させれば、今までとは違う技術の生かし方ができるかもしれません」

——新たなつながりも期待できます。

「既に大学などの研究機関とは連携を進めていく方向です。ただ、コロナで密を避けるために研究室にも人数制限が設けられていたり、時間が決まっていたり先方が通常に戻っていません。コロナの状況もありますが、長期的な目線で関係をより深くしていきたいと思っています。1社だけではなく、これからは他の企業や大学などの研究機関と連携することで新たな価値を持つ製品を生み出していきます」

——今後取り組んでいくことは。

「当社のDX(デジタルトランスフォーメーション)の取り組みの1つとして、基幹システムの入替えを行っています。従来は、既存のシステムを増強したり、カスタマイズしながらビジネスに必要な情報の処理をしてきました。その結果、システムの保守・改修に関するノウハウの伝承が十分にできていないところがありました。システムを一新することで、それらを解消し、より効率的に様々な角度で情報処理できるようにします。これは、業務の改善にもつながります。当社は今後もさまざまな変革に取り組んでいきます」

——ありがとうございました。